

供覧

11/1

電 号

0919

0919

艦政部 中壘

軍務局長

局長 吉田

大正四年

十月十八日起 案
十月十八日 發付 齊

私立女子英學塾長宛

船橋海軍無線電信所見學ノ件

本件ニ關シ十八日附願出ノ趣ニ有之候處軍事上
差支アルニテ除キ大体同無線電信所ノ外觀ノ
見學ノ事ニ許可相成候條詳細ハ當日同海軍
無線電信所ニ指示ヲ受テ見學相成候致度

藤原 英三郎

吉田

松本

十月十日

大正四年十月十九日發布

海軍省

政 4.10.19 受格

0920 紙 備 附

本件發布
廣信所ノ
大正四年十月
大正四年十月

局員出
十月十八日起
十月十八日發付
子英學塾長宛
軍無線電信所見學一件
八日附頼出、趣有之候慶軍事上
際々大伴同無線電信所、外觀、
許可相成候條詳細、當日國海軍
指示、受、見學相成様致度

藤原
英三郎

（印）

岩付、金、船橋、電話、及、

（印）

十月十日
大臣官房

大正四年十月十九日發布

海軍省官

政廳
4.10.19
受稿

0920 紙 箋 附

大正四年十月十八日
午後三時五十分
本件發布と同時に、船橋無線
電信所へ電話通知方取計相
成、

海軍省軍務局

右申達入

官房第三二〇五號一三

大正四年十月十九日

海軍省官

横鎮参謀長宛

船橋海軍無線電信所見學ノ件

私立女子英學塾職員生徒百二十名

内米國人 女二名

右ニ對シ本月二十二日船橋海軍無線電信所見學ノ
爲致度旨同塾長ヨリノ出願ニ對シ許可相成別

(様本納)

終

0921

海軍

紙通申達置候條可然御取計相成度

右申達ス

進テ本件急ニ要シ候間電話ヲ以テ直接電
信所長ニ通知済ニ付此旨申添候

(別紙一葉添)

終

0922



軍務局

御願

私立女子英學塾(專門學校令、據ハ學校)

職員生徒百餘拾名

内米國人廿人

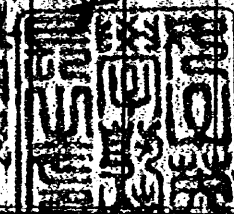
右ハ奉旨前九時頃千葉縣船橋無線電信所ヲ參觀致シ修學上ノ参考致ス候間右法許可被下奉旨故敢テ此也

東京市麹町区五番台五番地

私立女子英學塾長

津田梅子

大正四年十月十日



十月十日
官房受

軍務局接受

十月十日

0923

海軍省

副官

立子手 海軍省 副官

0924

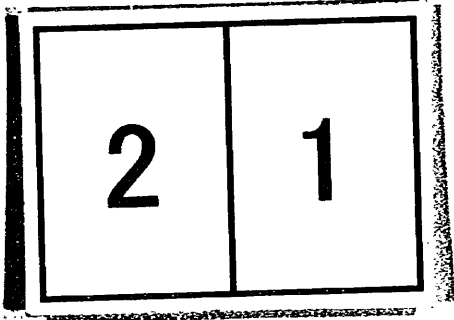
0925

文部大臣認可専門學校

私立
女子英學塾規則

大正三年三月改正

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

私立女子英學塾規則

私立女子英學塾規則

第一章 總則

第一條 本塾は英語を主とし女子に高等専門の學藝を教授し徳性を涵養するを目的とす

第二條 本塾は女子英學塾と稱す

第三條 本塾を東京市麹町區五番町十六番地に設置す

第四條 本塾に豫科、本科、選科、研究科、別科を置く

第五條 修業年限は豫科一ヶ年本科選科三ヶ年、研究科一ヶ年以上、別科一ヶ年若しくは二ヶ年とす

第二章 入學資格、學科程度

第六條 豫科に入學すべき者は左の一項目に該當する女子にして英語の入學試験に合格したるものとす

一、修業年限四ヶ年以上の高等女學校卒業のもの

二、官立公立高等女學校に於て専門學校入學者檢定規定に依る試験に合格し其の證書を有するもの

三、文部大臣に於て一般の専門學校入學に關し修業年限四ヶ年の高等女學校同等以上と指定したる學校の卒業者

第七條 豫科修了生及修業年限五ヶ年の高等女學校卒業生にして國語及中學校卒業程度に依る英語の入學試験に合格したるものは本科一學年に入學することを得

第八條 本科卒業生は文部省中等教員無試験檢定を受ける特典を有す

第九條 豫科及本科の學科目及び其程度は左の如し

倫理 人倫道德の要旨、倫理學大綱

國語漢文 講讀、文法、作文

英語 講讀、文法、會話、作文、英文學、英語史、及英文學史の概要

歴史 西洋歴史

心理學 普通心理學

教育學 教育の理論及應用、教授法(特に英語教授法)教授練習

言語學 言語學大意、聲音學大意

體操 體操及遊戲

第十條 豫科及本科の每週教授時數は左表に依る

學級	學科	本科第一學年			本科第二學年			本科第三學年		
		學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
豫科	倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
豫科	心理				二	二	二			
豫科	教育							英語教授法	英語教授法	英語教授法
豫科	國語				二	二	二			
豫科	漢文				二	二	二			
豫科	英語				一五	一五	一五			
豫科	英文學				一五	一五	一五			
豫科	歷史							一五	一四	一四
豫科	體操	三	三	三	三	三	三	三	三	三
豫科	計	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三
本科	倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
本科	心理				二	二	二			
本科	教育							英語教授法	英語教授法	英語教授法
本科	國語				二	二	二			
本科	漢文				二	二	二			
本科	英語				一五	一五	一五			
本科	英文學				一五	一五	一五			
本科	歷史							一五	一四	一四
本科	體操	三	三	三	三	三	三	三	三	三
本科	計	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三

但し第八條の特典を要せざる生徒には實地教授を課せざることあるべし

英語時間中第三學年第一學期に發音學一週二時第二學期に言語學二時第三學期に英語史二時第一、第二、第三學期を通じて英文學史二時を課するものとす又音樂、圖書、裁縫、刺繍等を隨意科とし、生徒の學力を審査して之を課することあるべし

第十一條 學科中英語を選修する者を選科生とす

第四章 入學及び退學

第十八條 入學は學年の始に於て之を許可す

但し豫科、研究科、別科は學年の始に於て之を許可することあるべし

第十九條 入學志願者は入學願書に履歷書卒業證書の寫及び左の證明書を添へて差出すべし

一、高等女學校又は別項入學資格規定の指定學校の卒業試験成績表及び品行に關する當該學校長の證明書

一、師範學校卒業者は右の外服務義務終了に關する地方長官の證明書

一、專門學校入學檢定試験合格者は合格書の寫

第二十條 入學の許可を得たるものは東京市内に於て一家計を立つる身元確實なる人より保證書を差出すべし

第二十一條 退學せんとするものは其事由を詳記し保證人連署の上届出づべし

第二十二條 左の各項の一に該當する者には退學を命ず

一、性行不良にして改善の見込なしと認めたるもの

二、學力劣等にして成業の見込なしと認めたるもの

三、引續き一ヶ年以上缺席したるもの

四、正當の事由なくして引續き一ヶ月上缺席したるもの

第五章 試験及び卒業

第二十三條 試験は各科とも第一、二、三學期試験、第三學年の末に卒業試験を行ふ

第二十四條 試験の評點は一百點を以て滿點とす試験に於て各科目六十點以上を得たる者につき教員會にて平素の學力及び操行を審査して進級及卒業を定む

第二十五條 生徒病氣若しくは正當の事故により試験を受け得ざる時は該議の上追試験を許可することあるべし

第六章 學費

第二十六條 入學を許されたる者は入學金貳圓を即時納附すべし

第二十七條 授業料は本科選科研究科は一箇年三十三圓豫科別科は參拾圓校費は各科一箇年三圓とし學期の始より十日以内に其學期分を分納すべし

第二十八條 一旦納附したる授業料及校費は之を返附せず

第七章 寄宿舎

第二十九條 寄宿舎は家族制度を採り塾長及舍監之を監督し定員を少數にして精神の修養身體の衛生に注意するを旨とす

第三十條 寄宿生の外出は舍監の許可を受くべし而して寄宿生の保證人は豫め其保證生徒の出入先を届出で置くべし

第三十一條 寄宿生は親戚保證人の居宅の外に宿泊することを許さず

第三十二條 寄宿生は一ヶ月舍費金壹圓五拾錢(冬期に至り金貳圓)貲費金七圓を毎月五日迄に納むべし

但し貲費は物價の高低により變更することあるべし

現在職員

塾長	立教中學校校長	津田梅子
幹事	東京外國語學校教授	田作之太
教員	バチラー、オブ、アーツ	山道寛
同	バチラー、オブ、アーツ	井上愛
同	文藝學士	原教子
同	文藝學士	倍能成
同	文藝學士	安久藏
同	文藝學士	福井靖子
同	文藝學士	辻本吉子
同	文藝學士	中山本子
同	文藝學士	白河子
同	文藝學士	塚本子

女子英學塾實修科規程

第一條 本塾別科トシテ實修科ヲ置ク

第二條 實修科ハ高等女學校卒業又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニ實際的ノ英語ト實際生活ニ必要ナル事項トヲ授クル爲ニ設ク

第三條 實修科ノ修業年限ハ二箇年トス

第四條 實修科ノ學科目ハ左ノ如シ

(一) 必修學科

修身 實踐道德及禮法

英語 講讀、會話、文法、作文、書取

家事 家政、生理衛生、和洋割烹

裁縫 普通裁縫及ミシン使用法

體操 普通體操及遊戲

(二) 隨意學科

習字

音樂

圖書

第五條 必修學科ノ每週教授時數ハ左表ニヨル

	第一學年	第二學年
修身	一	一
英語	一二	一二
家事	四	四
裁縫	五	五
體操	二	二
合計	二四	二四

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ三學期ニ分チ第一學期ハ四月十一日ヨリ、第二學期ハ九月十五日ヨリ、第三學期ハ一月八日ヨ

リ始マル

第七條 入學ハ學年ノ始ニ於テ許可ス、又學期ノ始ニ於テモ許可スルコトアルベシ。

但シ學年ノ始ニ於テハ試験ヲ要セズ檢定ニヨリテ之ヲ許可ス

第八條 入學志願者ハ入學願書ニ履歷書及卒業證書ノ寫ヲ添ヘテ規定ノ期日マデニ

申出ベシ

第九條 學費ハ入學金貳圓、授業料一學期拾圓校費一學期壹圓トス

第十條 修業年限五ヶ年ノ高等女學校卒業者ニシテ實修科ヲ修了セル者ハ本塾本科

第一學年ニ入學スルコトヲ得

第十一條 實修科第一學年ヲ修了セル者ニシテ本塾豫科ニ入學セント欲スル者ニハ

檢定ノ上之ヲ許可スルコトアルベシ

第十二條 其他ノ規定ハ凡テ本塾規則ニ準ズ

大正四年一月

東京市麴町區五番町十六番地

私立女子英學塾

女英學塾入學志願者便覽

大正四年一月印刷

紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正四年十月一日

午後四時三十分

海軍省

軍務局

船橋電信局長

望橋海軍省

全長四里

明日午後大花若一隊、後、二十名計、貴

所、見、望、願、出、討、し、多、量、十、中、各、回、差、致、し

置、中、ミ、タ、カ、リ、可、然、便、宜、タ、其、ノ、下、サ、イ、尚

大、花、若、ト、海、軍、若、ト、同、ニ、常、時、種、々、同

係、ミ、ア、リ、タ、ス、カ、リ、為、念、申、添、ヘ、テ、置、キ、マ、ス

(印)

右、直、船、橋、電、信、局、長、電、信、局、長、

0930

(印)

親覽

紙 野 案 起

庶

大正四年十月二十日起案
 起案者 捺印
 十月廿二日發付
 發付掛 捺印

(主務) 軍務局長 秋山 局員 齋

大 次官 齋 參事官 副官 齋

艦政部長 中野

大正四年十月二十一日 海軍次官

學習院長 宛

橫須賀海軍工廠參觀 1件

貴院主事小林晋吉外老名橫須賀海軍工廠參觀

海軍第三三四號

局、部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	教育	臨建	水路	軍令
受月日 發月日											
イニ											

大正四年十月二十一日午後五時十五分海軍工廠參觀

0931

方十月二十日附發第三四〇號ヲ以テ海軍大臣宛申請
ノ件認許セラル其ノ旨横須賀鎮守府ハ通牒相成候
條詳細ノフニ關シテハ同鎮守府ノ指示ヲ受ケ參觀セ
メラレ度
右申進ス

(終)

官房第三三四號ノ三

大正四年十月二十一日

海軍次官

横鎮長官宛

横須賀海軍工廠參觀ノ件

監習院主事 小林晋吉

同 書記 石原周文

0932

右者来ル十月二十三日二十五日
貴府ノ指示ヲ受ケシメテ度旨申進置候條可然、御
取計相成度
右申進ス

終

0933

軍務局



學習院 三十四號

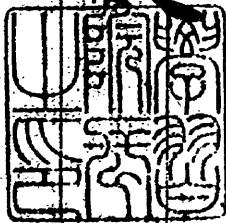
橫須賀海軍工廠參觀義付申請

當院主事小林晉吉同書記石原周文
校舍新築工事参考上取調ノ爲メ神奈
川縣ハ出張ノ序ヲ以テ御所轄橫須賀海
軍工廠學術上參觀爲致度候條御許
容相成候様致度此段申請候也

大正四年十月二十日

學習院長子爵大迫尚敏

官房第三二四四號



十月二十日
官房受

年十月日

0935

後案

海軍大臣加藤友三郎殿

逐^テ工廠^ハ本月^二十二^日二十五^日内^ニ
於^テ参觀^セシ^メ度此段添申候也

0936

紙 署 案 起

大正四年十月六日起案

起案者 捺印

局員 捺印

十月九日發付

發付掛 捺印

發付後起 捺印

案者捺印

(主務)

軍務局長

秋山

局員

吉川

三

大

次官

龍

參事官

副官

北

大南

人

南

大正四年十月九日

海軍次官

陸軍次官

横須賀海軍工廠軍艦修理事件

十月九日海軍省第三〇六號以テ照會貴省裁出

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	教育	臨建	水路	軍令
受月日	十月八日	大臣官房									
發月日		十月八									

0937

十八日新官指導、下ニ横濱領海軍之敵、軍艦等見出方
仲夏夜無之、其、古横濱に領領方、乃通保墨丸、茶
盤、細同、領方、下、協、上、其、指、下、見、也、也、也、
右、心、者、也、

官房第三四五號一三

大正四年十月九日

横濱市長官宛

海軍次官

横濱領海軍之敵、他、見、等、一、中、

右、此、日、刻、以、陸、軍、大、本、隊、等、生、出、各、等、兵、等、新、官、同、
案、海、軍、中、心、三、名、新、官、指導、下、横、濱、領、海、軍、見、出、
古、新、官、同、大、本、隊、長、照、會、對、等、夜、無、之、茶、盤、一、也、
接、資、料、協、議、上、等、新、官、指導、下、見、出、也、也、也、

0938

海軍

乃心若墨水条の述内取計あり
右中此

右記

十月十一日 横濱賀之森造船部

十月十九日 造船部以外ノ造船部、軍艦

台 二十日 造船部、水雷艇部

3

(模本納)

0939

軍務局

庚申第二〇三号

學生見學ノ件照會

大正四年青島陸軍大學校長河合

海軍次官鈴木貫太郎殿

左記日割ヲ以テ貴校學生五十八名兵學教

官海軍中佐島樂玉樹外三名指導ノ下

ニ貴校内海軍工廠水雷衛所及軍艦見

學ヲ致度候ニ付承認相成度此段及照會

奉也

左記

官房第三四五號

造兵部

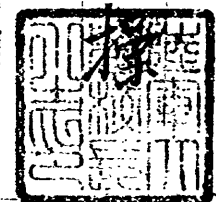


七月六日

官房受

軍務局接受

全十月 百



0940

十月十九日
海軍工廠、軍艦
走水附近、水電衛所
全二十日

（東京）永岩印行

0941

紙 野 案 起

大正四年十一月九日

起案者
捺印

十一月九日

日發付
捺印

發付後起
案者捺印

(主) 軍務局長

局員

局員

局員

大

次官

參事官

副官

副官

副官

副官

副官

副官

副官

副官

副官

副官

副官

副官

大正四年十一月九日

海軍次官

東京帝大工科大學校長宛

海軍工廠見書ノ件

工第一四五號照會貴大學學生渡邊武夫外三名、係係

番 官房第三四七九號

局、部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	教育	臨建	水路	軍令
受月日	十月九日	大臣官房									
發月日											

0942

海軍工廠造船及造機部見書一件差支無之其旨各鎮
府及通知置候條番内當該鎮府就中其指テラ
受テメラレ度

右回答ス

追テ見書期日確守上旨並接收方一面知方計レテ

終

官房第三四七九號二三

大正四年十一月九日

海軍次官

吳佐鎮長官宛

海軍工廠見書一件

東京帝國大學科大學造船學科第三學年 渡邊武夫

合 神田忠雄

合 河邊誠一郎

0943

海軍

右者来ル 異ハ 十月下旬、於テ一日間、於ハ十二月初旬
ニ於テ一日間、貴府工廠造船部及造機部ヲ見
察、為致度旨、令大要長ヨリ、照會ニ對シ、善支無
之番細ハ貴府、就キ其ノ指テ、受ケシメラレ度旨
回答致置候條、然御取計相成度
右申進ス

追テ見學期日確定、上ハ直接貴府ニ通知セシ
メラレ、旨申添置候

終

(花崎納)

0944

軍務局

工第一四九號

大正四年十一月六日

東京帝國大學工科大学長工學博士渡邊渡

海軍に官給小母貝太郎殿

局員

別記ノ者學術實地研究ノ爲メ左記ノ箇所
へ出張爲致度候ニ付乍御手数御差支無之
限リ便宜ヲ與ヘラレ候様致度此段御依頼
才及此照令也

一研究ノ場所

一研究ノ期日

(別紙通)

官房第三四七九號

十二月八日

官房

東京帝國大學

工務局

0945

依託書

非入

造船部 第三年生

河 達 武 史

神 田 忠 雄

河 達 誠 一 郎

十一月下旬、於ラ一日

呉 海軍工廠 造船部

十二月下旬、於ラ一日

佐田保海軍工廠 造船部

工 科 大 學

0946

紙 野 案 起

大正 四年 十一月 十八

日 起 案

起 案 者 捺 印

三 日

十一月十八日 發 付

發 付 掛 捺 印

小 決

發 付 後 起 案 者 捺 印

受 月 日 發 月 日

(主 務)

軍 務 局 長

局 員

大 臣

次 官

參 事 官

副 官

六 官

技 術 本 部 長

代 副 官

第 二 部 長

第 三 部 長

部 員

大正四年十一月十八日

海軍次官

東京帝國大学工学部

海軍工廠見学関係件

十一月十九日付第二十八號海軍工廠見学関係件

號 番

第三五十一號

局、部	官 房	軍 務	人 事	醫 務	經 理	司 法	艦 政	教 育	臨 建	水 路	軍 令
十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日
十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日

0947

11.15

中 節 一 二

田嘉六

二
松
岩
郎

吉田 藩

右十
二
四
三
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

必
の
ハ

楊樹工部科考三年生

人各其是，帝二昭，以同。

右十有六日入山 三日回

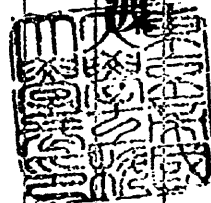
[illegible]

工第^二四^八號

十二月十一日
官房受

大正四年十一月九日

東京帝國大學工科大学長工學博士渡邊渡
海軍次官鈴木貫太郎殿



軍務局受
十二月十一日

軍務局

別記ノ者學術實地研究ノ爲メ左記ノ箇所
へ出張爲致度候ニ付乍御手數御差支無之
限リ便宜ヲ與ヘラレ候様致度此段御依頼
奉^ル方^ニ以^テ照^合也

一研究ノ場所
一研究ノ期日
(別紙^ニ通^リ)

官房第三五〇號

0951

依託監査人

機械工学科 第三年生

大河原 雄吉

松尾 龍一

大山 廣貞

中川 忠三

五代 友邦

右五名十二月一日迄ノ三日間

呉海軍工廠(造修部、配工部、
鋳造部、火薬部)

機械工学科 第三年生

中根 一二

0952

飯田嘉六

二 木後郎

吉田 義典

右四名十二月二三四日、三万石

是海軍工廠、

十二月六七、八日、三万石

佐世保海軍工廠、

0953

起案罰紙

大正四年十月一日起案

起案者捺印

(三)

十一月二十二日發付

發付者捺印

(小林)

發付後起案者捺印

(三)

(主務)

軍務局長

秋山

局員

(三)

(三)

大臣

次官

參事官

副官

(三)

(三)

(三)

次官

參事官

大正四年十月二十二日

海軍次官

奉命帝國大臣次官長官

帝國大臣次官海軍次官長官

奉命十月一日附一五五號以所照會貴大臣長官

番 三五七五

軍令	水路	臨建	教育	糧政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
											受月日
											發月日

0954

(觀)

本邦駐一外官海軍工廠見書一件 其書云
係駐外官の通牒書に於て、
其の指示の受ける見書に於て、
右の如し

宣統三年五月十三日

右の如し

右の如し

海軍省

帝國大書院海軍工廠見書一件

右の如し、
國大書院の如し、
貴府の指示の受ける見書に於て、
係駐外官の通牒書に於て、
其の指示の受ける見書に於て、
右の如し

(終)

右中江

右記

東京帝國大学工科大学造形学科

横録

第三年次

出頭証

十二月十六日

出頭

松本國四郎

十二月九日

岡田 智彦

出頭

鈴木 廣二

十二月七日

内田 嘉彦

出頭

徳弘 直親

十二月十四日

出頭

十二月廿九日、廿六日、廿七日、三十日同

杉村 工科大学第三年次

齋藤 昇雄

技師部

五十四

常

當時者丁

別記に著し
地軍、依託し
付たりや

0957

軍務局

工第百五十九號

大正四年十一月十八日

東京帝國大學工科大学長工學博士渡邊渡

海軍次官鈴木貫太郎殿

司員

別記ノ者學術實地研究ノ爲メ左記ノ箇所
へ出張爲致度候ニ付乍御手數御差支無之
限リ便宜ヲ與ヘラレ候様致度此段御依頼
奉ル所也

一研究ノ場所

一研究ノ期日

(別紙ニ付)

第三五七五號

十二月十日
官房受

軍務局受

十二月十日

0958

後案

造船学科第三年生

生野 然一

松本 盛四郎

團 智彦

鈴木 廣武

中田 嘉彦

徳弘 直軌

以上六名

佐世保海軍工廠 十二月七日

呉海軍工廠 全月九日

0959

長崎海軍工廠

三月十四日

横須賀海軍工廠

八月十六日

機械屋社

(船月機屋社) 第三年

齋藤義雄

長海軍工廠

十月廿五、六、七、八日間

0960

起案野紙

大正四年十一月二十三日

起案者 捺印

十二月二十六日發付

捺印

案者捺印

(提案)

艦政部長

副官

大官

大官

次官

參事官

技術部長

第一部 檢査副官

軍務局長

局長

局長

局長

大正四年十一月二十三日

陸軍次官

平塚大素親造所見傳件

本件關於陸軍第三師團以御覽會一紙、永本月平六、八、三十日

番

官房第三五八號

一

艦政部第一四九號

局部	受月日	發月日
官房	十二月廿四日	
軍務	十二月廿四日	
人事		
醫務		
經理		
司法		
艦政		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

0961

4.11.24

返／聞於テ便宜一／向見學セシムラシキ者支無セテ尚工場設備／聞えん説明ハ
迄大監督官海軍技師兼田和太郎ヲシテ當ラシメ出承得ル限リ詳細説明
方可取計矣／其元来右設備ハ露國同テンシニ属シ公社ヲ購入据候苦心経
營／結果今日に至リタモ有之候テ微妙ノ操作等ニ至テハ海軍監査官ト
虽モ窺ヒ得サルモ有之候條果シテ御希望ノ途ニ得ルヤ疑ハシキ有之矣
付坎込據ノ御承知置候所
右回答ヲ兼覽會入

0962

陸軍省 陸軍部 第三二四四號

平塚大業製造所見學ノ件

陸軍次官大島健

第一部長官 海軍以長 鈴木貫太郎

今般爲之管内ニ於テ發煙硫酸製造

軍務局所設備ノ正圖有之就テハ右設備上ノ

参考ノタメニ該製造技術家タル左記ノ

者ヲレテ貴省大工等階ノ下ニ立ル平場

大業製造所見學ヲ爲致度ニ付便宜

與ヘラレ度及照會公也

進テ知公之ノ事 艦政第一四九號

艦政第一四九號

本放 411.20 發機

0963

市件 商設 無異

名主所見字ノ件
 陸軍次官大島健
 鈴木貫太郎殿
 内ニ於テ炭煙硫酸製造
 有之就テハ右設備上ノ
 製造技術家タル左記ノ
 人並々踏ノ下ニ互ル平塚
 見字為致度ニ付便宜
 及照會也
 今午
 艦政部第一四九號
 名主所見字ノ件
 陸軍次官大島健
 鈴木貫太郎殿
 内ニ於テ炭煙硫酸製造
 有之就テハ右設備上ノ
 製造技術家タル左記ノ
 人並々踏ノ下ニ互ル平塚
 見字為致度ニ付便宜
 及照會也

本誌
 4.11.20
 受取

0963

本件字の表紙の然り徳子
 高設備の国産炭煙硫酸製造
 島並々踏ノ下ニ互ル平塚
 見字為致度ニ付便宜
 及照會也
 今午
 艦政部第一四九號
 名主所見字ノ件
 陸軍次官大島健
 鈴木貫太郎殿
 内ニ於テ炭煙硫酸製造
 有之就テハ右設備上ノ
 製造技術家タル左記ノ
 人並々踏ノ下ニ互ル平塚
 見字為致度ニ付便宜
 及照會也

0964

煙硫酸製造設備ノ詳細説明ニ得ル
 者ヲシテ誘導セラルノ便宜ヲ要ス
 ルヲ得ハ奴部令ニ付テ然申配直
 煩宜尚見事時日モリ然指宜古成格
 取直申添更

左記

東京砲兵工廠 陸軍砲兵中佐中川 茂
 陸軍技師有本 完
 同日 阿部健虎
 陸軍砲兵尉植村 東 春

0965